



人権の視点から 保護者支援を考える

つむら かおる
津村 薫 さん (フェリアン 副所長)



人権保育専門講座3では、フェリアン 副所長の津村 薫さんに、「人権の視点から保護者支援を考える」と題して、ご講演いただきました。講演では、実践例をもとに保護者の思いを大切にされた保護者支援などについて具体的にお話いただきました。今回は、講演の一部を紹介します。

◆ 保護者への理解を深め、支援の基本姿勢を確認しましょう

地域社会の崩壊による親の孤立、伝承のない子育て、コミュニケーションの希薄化、情報の氾濫、ストレス耐性の弱まりなど、様々な背景により、子育て支援の重要性が増しています。日本の子育て支援で指摘されている問題点として、「なぜ自分の子どもひとり満足に育てられないのか」、「子育て支援が親を甘やかしてだめにするのでは」など、子育てする側に責任を押しつける傾向があります。そのような生きにくい・子育てをしにくい社会にしているのはいったい誰なのでしょう。よりよい支援のためには、私たちは常に自分（そうさせている社会）に指を向けていく必要があります。支援・コミュニケーションで最も重要なことは、「あなたが大切です」という思いが伝わることです。支援の基本姿勢として、「温かいが、決して馴れ馴れしくない、冷静だが決して冷たくない適度な距離やバランスの良さ」を大切に考え、支援する場合の自分自身の立ち位置を確認していきましょう。

◆ 保護者を支援していくうえで、大切な原則

・個別化の原則

保護者も子も一人ひとりちがいます。ひとつとして同じ組み合わせの親子もいません。ひとつとして同じ問題も事情も存在しません。ですから、相手にレッテルを貼る（ラベリング）のは止めましょう。また、同様の問題だと勝手にまとめて（カテゴライズ）、同様の解決方法をとるのは止めましょう。保育者は、簡単に分かったような気にならず、丁寧に保護者の声を聴いていくことが大切です。

・自己決定権の原則

保護者支援で大切なことは、保護者（相談者）にどうなってほしいのかではなく、保護者（相談者）がどうなりたいかです。保護者をどうにかしようというコミュニケーションは、よくありません。保育者は、保護者のよりよい道案内ができるように、常に保護者の思いを聞きながら、保護者自身が自己決定できるように支援していきましょう。

・意図的な感情表現の原則

保護者が嫌な気持ちを、保育者に言えることは良いことです。保育者は否定的な感情表現を受け止めることが大切です。そのためには、繰り返して聴く、相手の気持ちを言葉にするなど傾聴を心がけていきましょう。そして、保育者側も自分自身の感情をキャッチ、コントロールできるようにしましょう。



【参加者アンケートより】

- 今、私が悩んでいる内容の話が聞けてよかったです。保護者の気持ち、保育者の気持ちの両方を分かってもらったうえでのお話だったので納得することが多くありました。
- 「価値観のちがいがあるのは当たり前」、「支援者に自分の意見を押し付けない」など、分かってはいてもなかなか出来ていない自分がいます。まずは保護者と信頼関係を築いて、まずはこの人なら話しても良いと思ってもらえるようになりたいです。
- 私は、「いつも保護者の意見を受け止め、解決策を考えないといけない」とプレッシャーになっていましたが、「保護者自身が自己決定できるように支援することが大切だ」と聞き、心が少し軽くなりました。